

第4章. 目指すべき都市の骨格構造

- ・都市計画マスタープランの将来像における発展や連携の方向性を踏まえ、市民が将来にわたり安心して快適に暮らすことができ、丹南地域の中心都市として持続的に発展するために必要となる「拠点」と「公共交通軸」について以下の通り設定します。

4－1. 拠点地区の考え方

(1) 立地適正化計画作成の手引きによる拠点地区の考え方

- ・国土交通省が作成した「立地適正化計画作成の手引き」では、各拠点の考え方は以下のように整理されています。

■各拠点地区のイメージ

拠点類型	地区の特性	設定すべき場所の考え方	地区例
中心拠点	・市域各所からの公共交通アクセス性に優れ、市民に高次の都市機能を提供する拠点	・特に人口が集積する地区 ・各種の都市機能が集積する地区 ・市内各所から基幹的公共交通等を介して容易にアクセス可能な地区	・中心市街地活性化基本計画の中心市街地 ・市役所や市の中心となる鉄軌道駅の周辺 ・業務・商業機能等が集積している地区等
地域／生活拠点	・地域の中心として、地域住民に、行政支所機能、診療所、食品スーパー等、主として日常的な生活サービス機能を提供する拠点	・周辺地域に比して人口の集積度合いが高い地区 ・日常的な生活サービス施設等が集積する地区 ・徒歩、自転車又は端末公共交通手段を介して、周辺地域から容易にアクセス可能な地区	・行政支所や地域の中心となる駅、バス停の周辺 ・近隣商業地域等小売機能等が一定程度集積している地区 ・合併町村の旧庁舎周辺地区 等

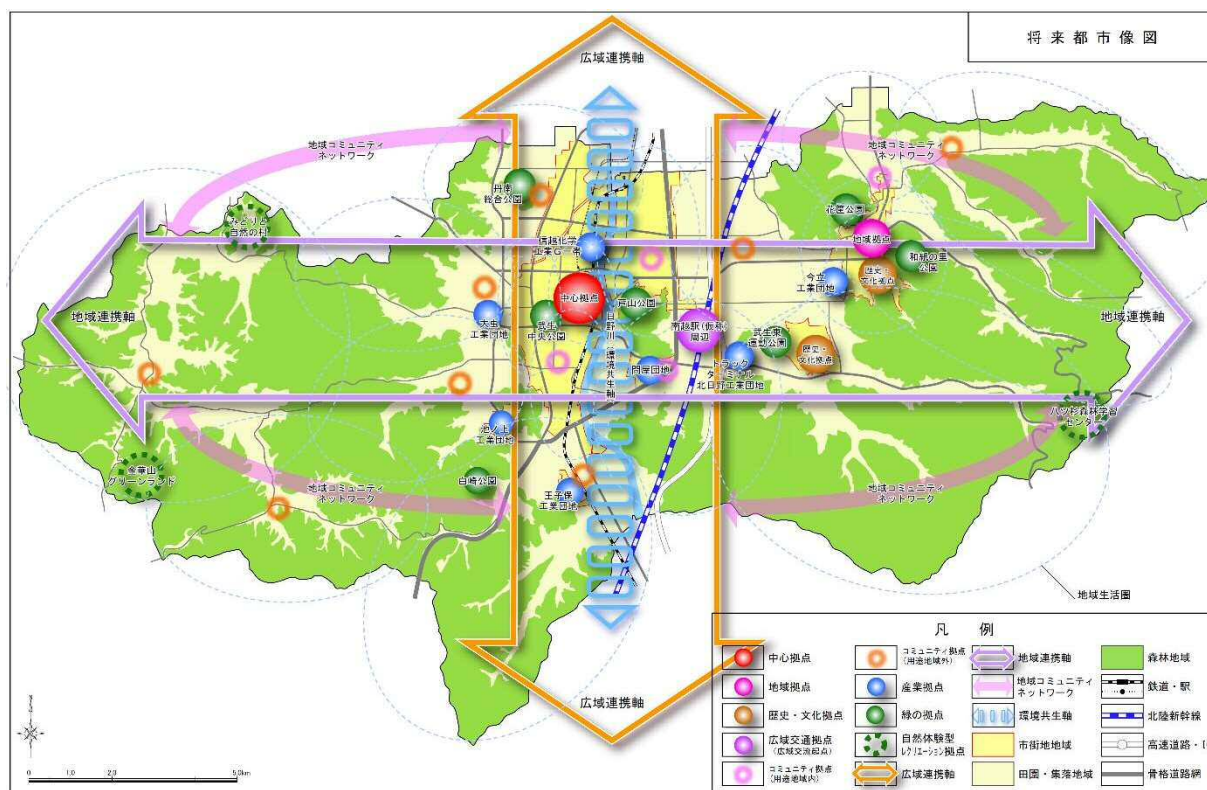
(出典：立地適正化計画作成の手引き（国土交通省）)

■各拠点地区において想定される機能のイメージ

	中心拠点	地域／生活拠点
行政機能	中枢的な行政機能 (例) 本庁舎	日常生活を営む上で必要となる行政窓口機能等 (例) 支所、福祉事務所等各地域事務所
介護福祉機能	市町村全域の市民を対象とした高齢者福祉の指導・相談の窓口や活動の拠点となる機能 (例) 総合福祉センター	高齢者の自立した生活を支え、又は日々の介護、見守り等のサービスを受けることができる機能 (例) 地域包括支援センター 在宅系介護施設 コミュニティサロン 等
子育て機能	市町村全域の市民を対象とした児童福祉に関する指導・相談の窓口や活動の拠点となる機能 (例) 子育て総合支援センター	子どもを持つ世代が日々の子育てに必要なサービスを受けることができる機能 (例) 保育所、こども園 子育て支援センター 放課後児童クラブ、児童館 等
商業機能	時間消費型のショッピングニーズ等、様々なニーズに対応した買物、食事を提供する機能 (例) 相当規模の商業集積	日々の生活に必要な生鮮品、日用品等の買い回りができる機能 (例) 食品スーパー、コンビニ
医療機能	総合的な医療サービス（二次医療）を受けられることができる機能 (例) 病院	日常的な診療を受けることができる機能 (例) 診療所
金融機能	決済や融資等の金融機能を提供する機能 (例) 銀行、信用金庫	日々の引き出し、預け入れ等ができる機能 (例) 郵便局、ＡＴＭ
教育・文化機能	市民全体を対象とした教育文化サービスの拠点となる機能 (例) 文化ホール 中央図書館	地域における教育文化活動を支える拠点となる機能 (例) 図書館支所 社会教育センター

(2) 越前市における拠点の考え方

- 越前市都市計画マスタープランでは、越前市に求められる都市機能を踏まえ、機能の集積や高度化を目指す「拠点」、発展や連携の方向を示す「軸」、まちづくりのベースとなる土地利用の区分を示す「地域」に分け、それぞれが目指すべき基本方針を設定しています。



■越前市都市計画マスタープランの将来都市像図

- 国土交通省の手引きにおける考え方を基本としつつ、都市計画マスタープランの将来都市像において設定されている拠点との整合を図るものとします。

① 中心拠点

- ・都市計画マスタープランの将来都市像において、中心拠点として位置づけられている「本庁舎周辺」を位置づけます。

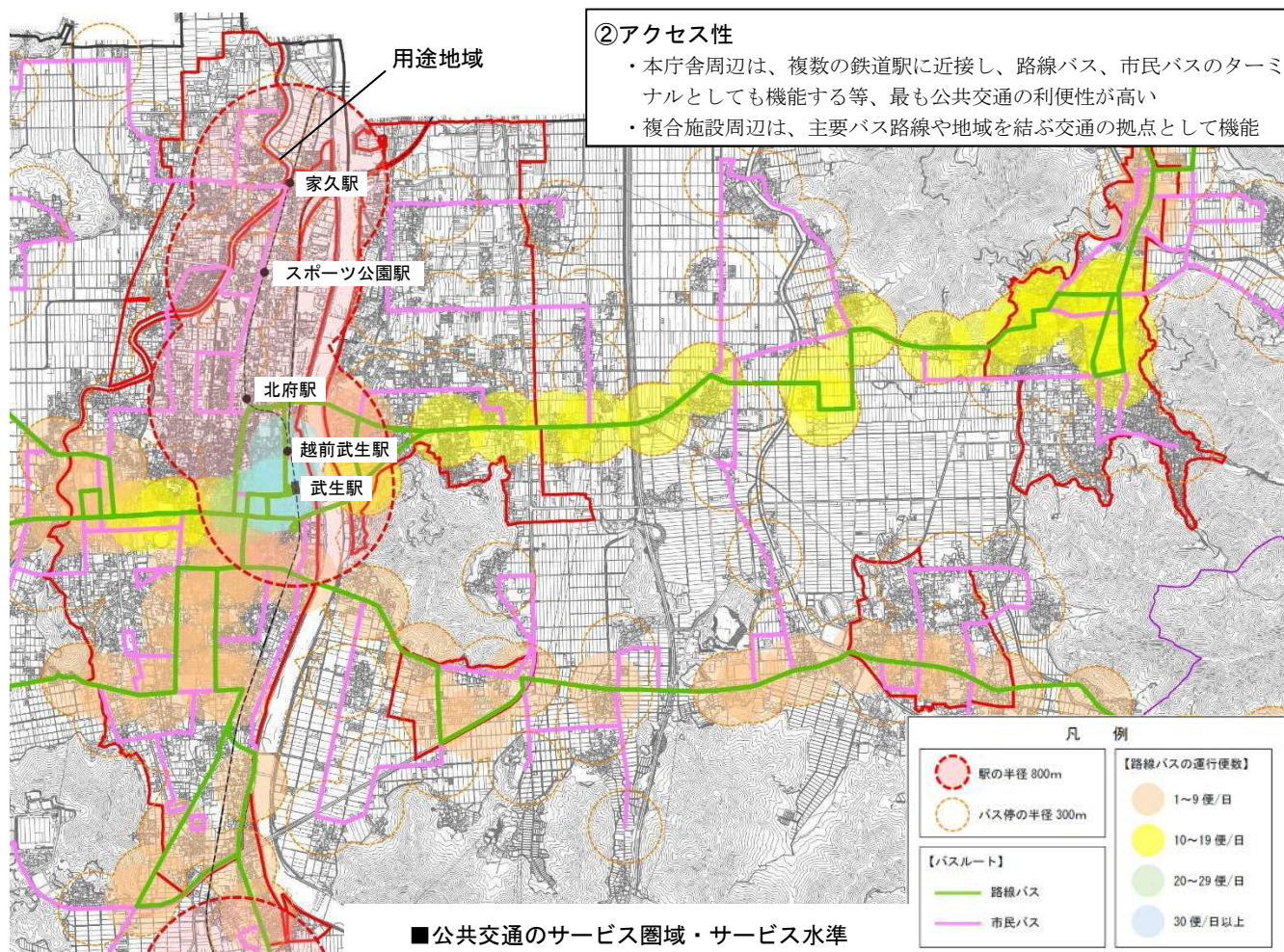
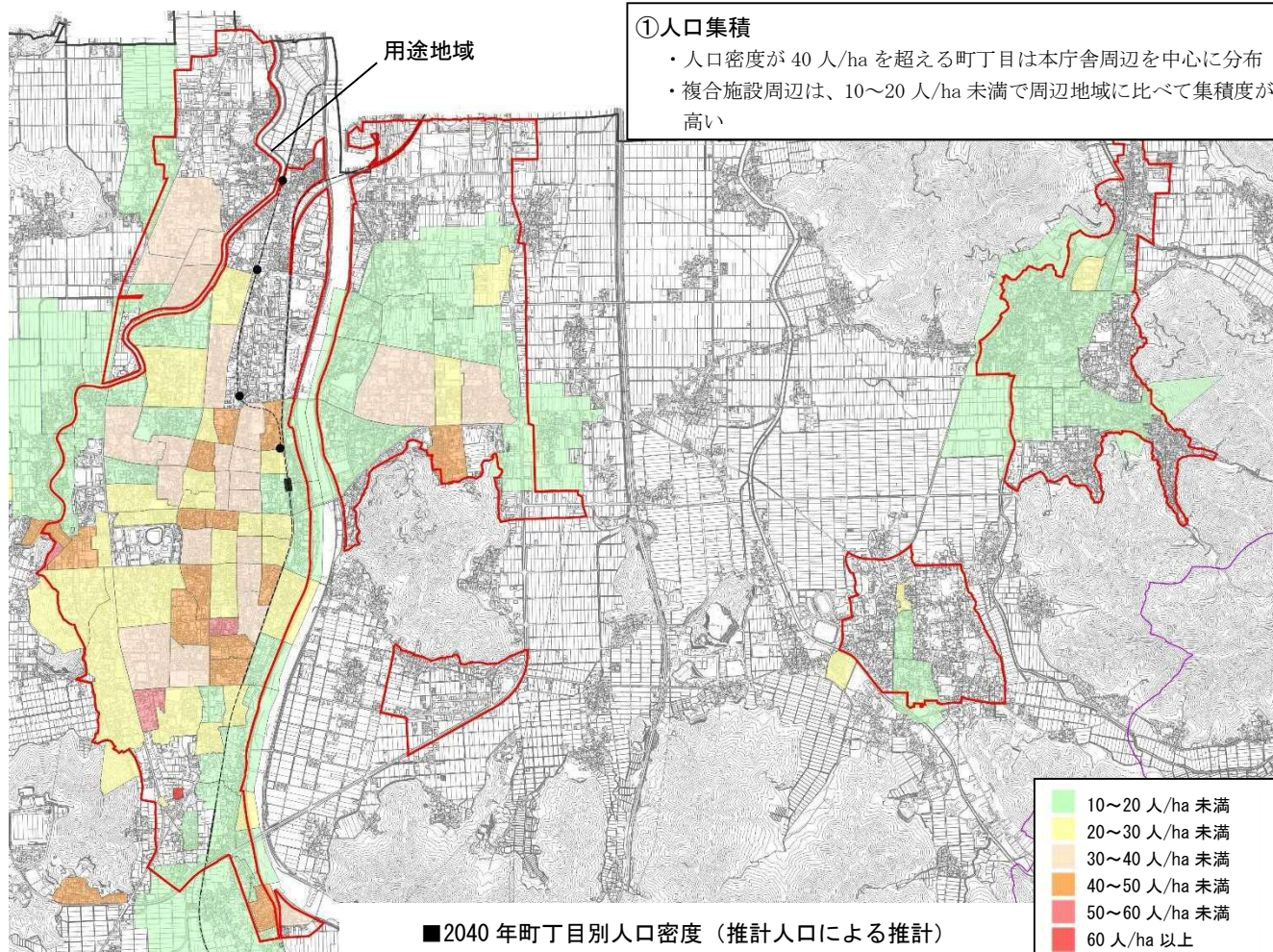
中心拠点	○本庁舎周辺
	・市内各方面からのアクセスにも優れた市内で公共交通の利便性が最も高い地区であり、日常生活の圏域を越えた、市全域、全市民を対象とする「高次都市機能」が集積する、市民の暮らしを守るための最も重要な拠点 ・越前武生駅は、平成 28 年 2 月に策定した福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画（以下、形成計画）における公共交通拠点地区、主要乗継拠点

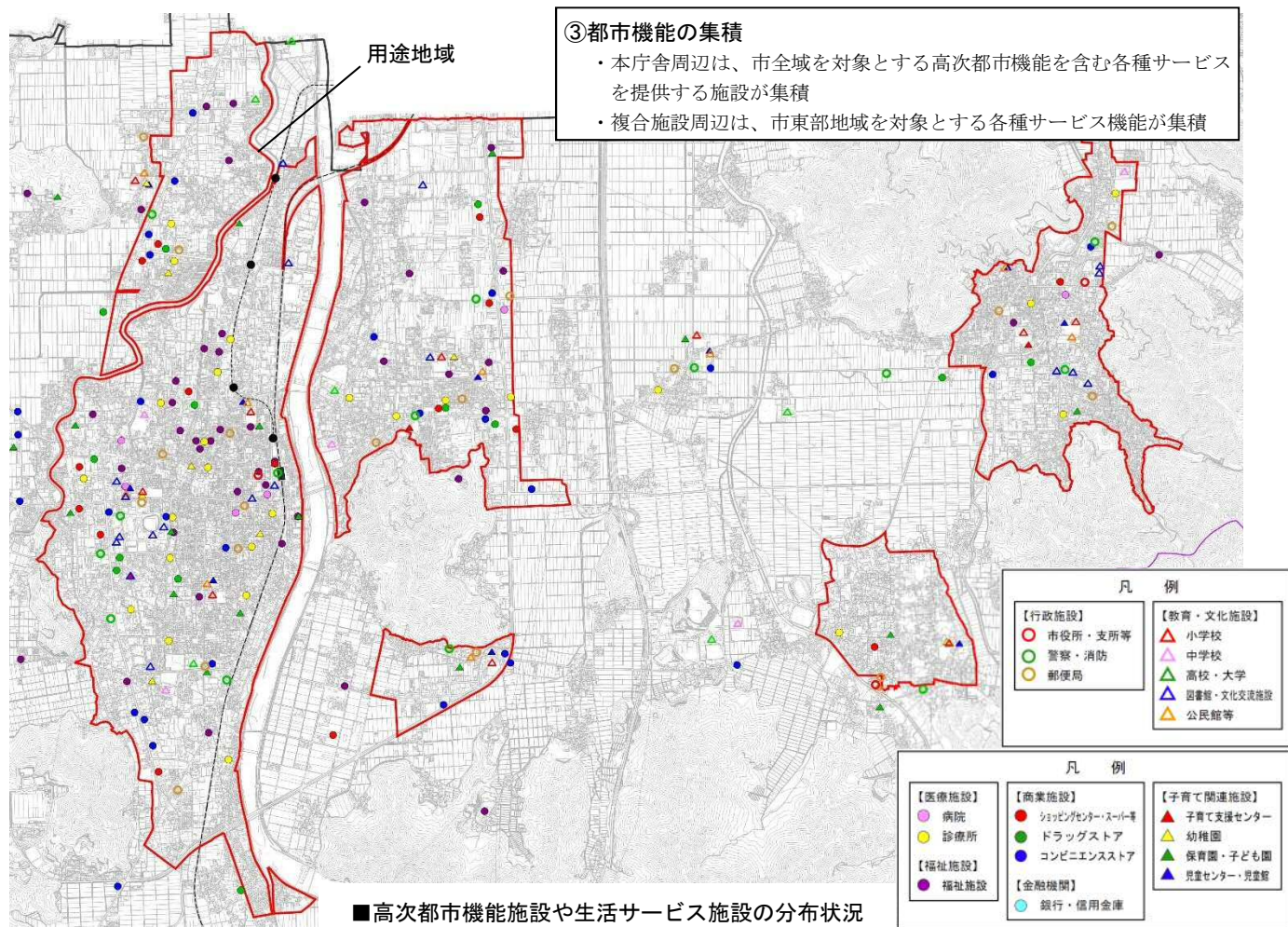
② 地域拠点

- ・都市計画マスタープランの将来都市像において、地域拠点として位置づけられている「複合施設周辺」を位置づけます。

地域拠点	○複合施設周辺
	・主要バス路線や地域を結ぶ交通の拠点として機能し、市東部地域を対象とする「東部地域都市機能」が集積する、伝統と文化、防災で結びつける拠点

- ・中心拠点と地域拠点として位置づけた本庁舎周辺と複合施設周辺について、国土交通省の手引きにおける「設定すべき場所の考え方」で示されている、①人口集積、②アクセス性、③都市機能の集積についての視点から検証を行います。





■中心拠点に想定される機能と本庁舎周辺に立地する主な施設

想定される機能	手引きにおける施設の例	本庁舎周辺に立地する主な施設
行政	本庁舎	本庁舎
介護福祉	総合福祉センター	越前市地域包括支援センター基幹型（本庁舎内 長寿福祉課）
子育て	子育て総合支援センター	越前市福祉健康センター（子ども子育て相談室、越前市児童発達支援センターなないろ） 地域子育て支援センター NPO法人 子どもセンターピノキオ
商業	相当規模の商業集積	アルプラザ武生
医療	病院	林病院、中村病院
金融	銀行、信用金庫	福井銀行、北陸銀行、福邦銀行、福井信用金庫
教育・文化	文化ホール、中央図書館	越前市文化センター、中央図書館、武生公会堂記念館

■地域／生活拠点に想定される機能と複合施設周辺に立地する主な施設

想定される機能	手引きにおける施設の例	本庁舎周辺に立地する主な施設
行政	支所、福祉事務所等各地域事務所	今立総合支所
介護福祉	地域包括支援センター、在宅系介護施設、コミュニティサロン 等	おいで家 社会福祉センター・老人福祉センター今寿苑（用途地域外）
子育て	保育所、こども園、子育て支援センター、放課後児童クラブ、児童館 等	地域子育て支援センターいまだて（認定こども園あわたべ内） 認定こども園あわたべ、花筐児童館、岡本児童館
商業	食品スーパー、コンビニ	バロー今立店、ファミリーマート栗田部店
医療	診療所	佐々木医院、林医院
金融	郵便局、ATM	今立郵便局、南中山簡易郵便局
教育・文化	図書館支所、社会教育センター	今立図書館、今立芸術館

③ コミュニティ拠点

- ・本市の地域特性を踏まえた独自の拠点として、地域生活圏毎にコミュニティ拠点を設定します。

コミュニティ拠点	○地域コミュニティ活動の中心となる公民館や小学校の周辺
	・地域生活圏における生活利便性を確保するため、既存の日常的な生活サービス機能を維持

④ 広域交通拠点

- ・都市計画マスタープランの将来都市像において、「広域交通拠点」として位置づけられている「北陸新幹線南越駅(仮称)周辺」を位置づけます。
- ・広域交通拠点と中心拠点や地域拠点を連絡する二次交通により、北陸新幹線南越駅(仮称)周辺の活力を誘引し、まちの活性化を図るとともに、都市機能の維持、まちなか居住の促進につながります。

広域交通拠点 (広域交流起点)	○北陸新幹線南越駅(仮称)周辺
	・北陸自動車道武生IC、国道8号といった高速・広域交通網が近接し、幅広い交通手段の利用者が訪問しやすい立地特性を活かして、県域を越える多様な利用者を対象とする広域交流及び連携拠点としてふさわしい活用を検討 ※広域交通拠点は、住居系の土地利用を想定していないことから、今回の立地適正化計画では誘導区域検討の対象区域には含まれません。

4-2. 公共交通軸の考え方

(1) 立地適正化計画作成の手引きによる基幹的な公共交通軸の考え方

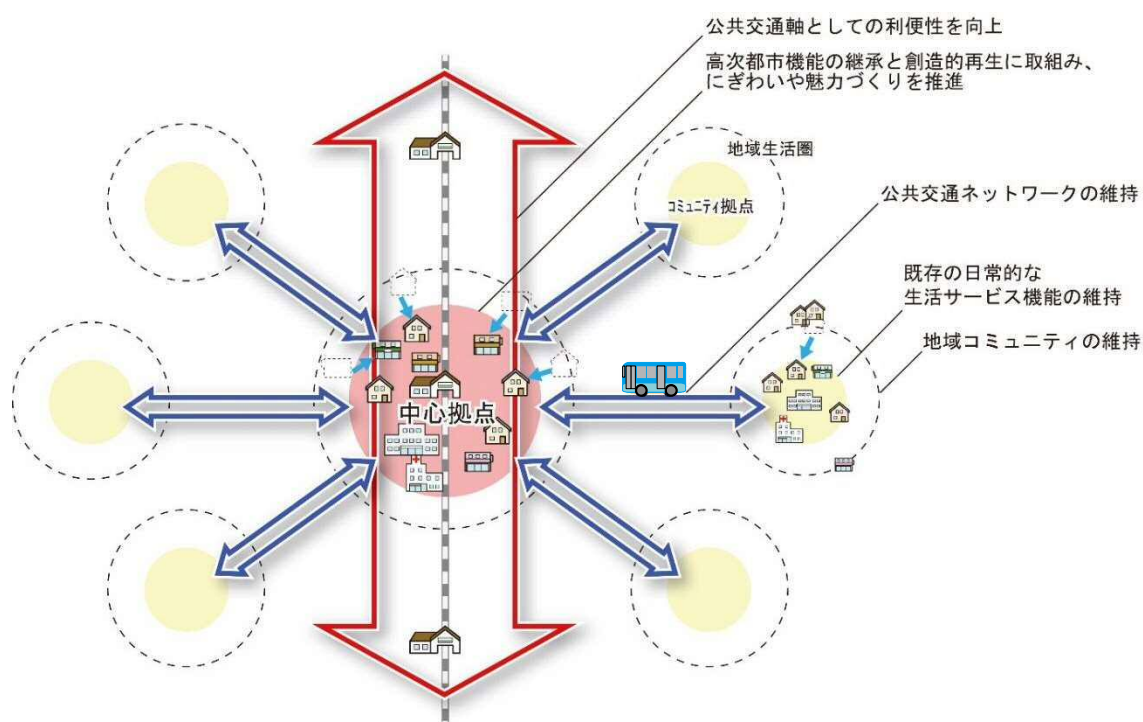
- 国土交通省が作成した「立地適正化計画作成の手引き」では、基幹的な公共交通軸の考え方は以下のように整理されています。

公共交通軸の特性	将来にわたり一定以上のサービス水準が確保される見通しの公共交通が運行する軸
対象となる公共交通路線の考え方	一定以上のサービス水準を有する路線であり、一定の沿線人口密度があり、かつ公共交通政策でも主要路線として位置付けられる等、サービス水準の持続性が確保されると見込まれる路線

(2) 越前市における基幹的な公共交通軸の考え方

- 国土交通省が作成した「立地適正化計画作成の手引き」及び、形成計画の考え方に基づき、基幹的な公共交通軸として「南北軸」、「東西軸」を設定します。
- 基幹的な公共交通軸に加えて、補助的な公共交通網を設定します。

公 共 交 通 軸	対応する公共交通
基幹的な公共交通軸 ・右記の条件のいずれかを満たす路線について設定 - 立地適正化計画作成の手引きにおける一定以上（30本/日以上）のサービス水準を有する路線 - 形成計画における地域間幹線	南北軸：JR北陸本線、福井鉄道福武線 ・都市間を連絡する基幹交通軸であり、利便性の向上を目指す 東西軸：福井鉄道バス南越線、池田線、武生越前海岸線（八田経由）、王子保河野海岸線 ・主に拠点間を連絡する持続的な基幹交通手段として、ネットワークの維持、サービス水準の向上を図る
補助的な公共交通網 ・基幹的な公共交通軸を補完する公共交通について設定	その他の路線バス、コミュニティバス（市民バスのろっさ） ・市民の日常生活を支える交通手段として、将来的にも公共交通ネットワークの維持を図る



■ 中心拠点と交通軸、周辺とのネットワークのイメージ

4－3. 目指すべき都市の骨格構造

- 本市は、日常生活の圏域を越えた市全域、全市民を対象とする高次都市機能が集積し、基幹的な公共交通のターミナルでもある中心拠点と、市東部地域を対象とする都市機能が集積する地域拠点、中心拠点及び地域拠点と鉄道や道路によって結ばれた身近な生活の場となる地域生活圏（概ね小学校区）から成り立っています。
- 今後、更なる人口減少・少子高齢時代の進展が見込まれる中、地域生活圏で必要な施設の規模の縮小・撤退等により、住民の生活を支えるサービス水準が低下し、ひいてはサービスを維持できなくなることが懸念されます。
- このため、全市民が利用するような高次都市機能は周辺からのアクセスが便利な中心拠点に集約して提供し、公共交通を中心とするネットワークを確保することにより、サービスの維持を図ります。
- 中心拠点は、周辺地域を含む市民の暮らしを守るための最も重要な拠点として位置づけ、既存の都市機能の維持に加えて、市民生活をより豊かにする高次都市機能の集約・誘導を図ることで本市全体の中での拠点性を高めます。
- 地域拠点は、伝統と文化、防災で結びつける拠点として位置づけ、市東部地域を対象とする都市機能の充実を図ることで暮らしやすさの維持・向上を図ります。
- 地域生活圏毎にコミュニティ拠点を設定し、既存の日常的な生活サービス機能を維持するとともに、公共交通軸により中心拠点や地域拠点へのアクセスの利便性を確保することで、地域生活圏でのコミュニティの維持、本市全体としての暮らしやすさの維持・向上を図り、「持続可能なネットワーク型コンパクトシティ」の実現を目指します。
- また、北陸新幹線南越駅(仮称)と中心拠点や地域拠点を連絡する二次交通により、北陸新幹線南越駅(仮称)開業による活力を誘引し、まちの活性化を図るとともに、都市機能の維持、まちなか居住の促進につなげます。

目指すべき都市の骨格構造

